

低線量肺がんCT検査を受診される方へ

1. 我が国の肺がんの状況について

ご存じの通り、日本人の死因の第1位は悪性新生物（広義のがん）ですが、その中で肺がん死亡数が第1位と最も多く（2014年部位別予測がん死亡数 76,500人）、この状況を改善するために、肺がんを早期に発見する努力がなされています。

2. 低線量肺がんCT検査の目的について

低線量肺がんCT検査の目的は、肺がんを早期に発見することです。すなわち、転移を来す前の、完治可能な時期に肺がんを見つけ、適切な治療を行うことにより、肺がんによって死亡しないようにすることです。肺がんにならないようにする予防対策とは異なります。

3. 低線量肺がんCT検査の成績について

低線量肺がんCT検査では、従来の胸部単純X線（いわゆるレントゲン写真）による検査と比較して、より小さく、より早い時期の肺がんを発見できることが、国内外の研究で報告されています。CT検査による肺がん発見率は、胸部X線検査にくらべて高く、発見された肺がんは早期の比率が高く、その治療成績も良好であることが知られています。

4. 低線量肺がんCT検査の方法

X線を使って体内の断面像を得ることができる、コンピュータ断層装置（CT）を使って検査を行います。寝台の上に仰向けに寝て頂いて位置合わせをしたあと、アナウンスにあわせて息をすっていただき、数秒間呼吸を停止している間に肺の全体を細かくスキャン（撮影）します。当院で行うCT検査の特筆すべき点は、最先端のCT装置と被ばく低減技術を用いるため、普通の体格の方の場合は、通常行われるCT検査の10分の1程度で検査を行います。

5. 低線量肺がんCT検査受診により期待される利益

もし肺がんになっていた場合、検査によって早期に病変が発見され、より早期に適切な治療を受けることができ、その肺がんによって命を奪われるようなことを防ぐ事ができる可能性があります。また、肺がん以外の呼吸器の病気（肺気腫、肺炎、気管支拡張症、抗酸菌感染症など）や、肺以外の病気（縦隔腫瘍や心臓や血管の動脈硬化像など）が発見されることもあります。

6. 低線量肺がん CT 検査受診により起こるかもしれない不利益

- (1) 検査で異常がみつかったとしても、結果的に肺がんではないこともあります。喫煙習慣のある人・喫煙習慣のあった人を対象として低線量 CT による検査を行うと、3～6割の人に、何らかの“異常な影”がみつかることが報告されています。“異常な影”の9割以上は肺がんではありませんが、なかには肺癌と非常にまぎらわしいものもあります。そこで、肺癌か否か診断するために精密検査や経過観察が必要になる場合があります。この場合、実際には肺癌ではないのに、検査を受けなければ感じないですんだ「肺癌だったらどうしよう」といった不安をかかえる可能性や、検査を受けなければ行わずにすんだ精密検査を受けることになってしまうような不利益を被る可能性があります。また、精密検査では別途費用が必要になる場合や、稀に合併症が起こる可能性があります。
- (2) 検査で「肺がん」が発見され、無事に手術で早期のうちに切除出来たとしても、それが、将来あなたの生命に影響を及ぼさないような、ゆっくり大きくなるタイプの肺がんである可能性も無いわけではありません。
- (3) 低線量とはいえ放射線被ばくが無いわけではありませんが、このような CT 検査を受けたことにより新たに癌が発生したという報告はありません。

7. 検査費用について

検査は、病気の方に必要な検査を行うものとは違いますので、その費用は健康保険からの支払いはなく、自己負担となります。異常が発見されて精密検査が行われることになれば、通常の診療と同様に、一部が保険で支払われ一部が自己負担となります。

8. その他注意すべき事項

- (1) 低線量肺がん CT 検査を受ければ、必ず肺がんが早期に見つかるというわけではありません。太い気管支内にできるがんや、数ヶ月の単位で急速に大きくなる悪性度の高いがんでは、CT 検査といえども早期に発見する事が困難な場合があります。また、小さなサイズのうちに発見できても、すでに転移を来しているような悪性度の高いがんもあります。
- (2) 小さな病変が見つかった場合、その病変が典型的でない場合は、がんであるか否かの判断が難しいことがあります。そのような場合は、必ずかかりつけ医または医療機関を受診して、今後の方針を含めて相談してください。